

平成 27 年度

事業計画書

平成 27 年

公益事業

[1] 美術館事業

① 展示事業—展覧会名とその概要—

(1) [館蔵] 春の優品展—和歌と絵画

平成 27 年 4 月 4 日 [土] —5 月 10 日 [日]

館蔵品の中から、『古今和歌集』や『和漢朗詠集』などの歌集の断簡である「古筆」、歌人の肖像画である「歌仙絵」、琳派の絵画など約 50 点の名品を選び展示（会期中一部展示替あり）。和歌と書と絵画の世界を展観する。

特別展示予定＝国宝「源氏物語絵巻」4 月 29 日 [水] —5 月 10 日 [日]

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日（5 月 4 日は開館）、5 月 7 日 [木]

(2) [館蔵] 近代の日本画展

平成 27 年 5 月 16 日 [土] —6 月 21 日 [日]

館蔵の近代日本画コレクションから、「風景表現」を中心に、橋本雅邦、小川芋銭、横山大観、川合玉堂、冨田溪仙、小林古徑、橋本関雪、安田靉彦、川端龍子など、明治から昭和にかけての近代日本を代表する画家の作品約 40 点を選び展観。宇野雪村コレクションの文房具と近・現代の書も同時公開。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

(3) [特別展] 瓷華明彩—イセコレクションの名陶

平成 27 年 6 月 27 日 [土] —8 月 9 日 [日]

中国では陶磁器をあらわすことばとして瓷器が用いられてきた。とくに陶磁器の釉薬の上に鮮やかな文様を描いた五彩は、日本でも赤絵と呼ばれ大いに珍重され賞玩の対象となった。質の高さで国内外に知られるイセ文化財団代表理事（イセグループ会長）伊勢彦信氏蒐集の中国陶磁コレクションより、漢時代から清時代にわたる選りすぐりの上絵作品約 70 点を東京で一挙初公開。あわせて中国古代の官僚知識層である士大夫がこよなく愛した美の世界を文房飾りを通して見る。

一般 1200 円／高・大学生 900 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日（7 月 20 日は開館）、7 月 21 日 [火]

館内整備のため休館＝平成 27 年 8 月 10 日 [月] —9 月 4 日 [金]

(4) [館蔵] 秋の優品展—宗教と美術

平成 27 年 9 月 5 日 [土] —10 月 18 日 [日]

館蔵品の中から、装飾経を中心とした「古写経」、禅宗僧侶の筆跡である「墨跡」、禅宗世界で描かれた「水墨画」など、名品約 50 点を選び展示（会期中一部展示替あり）。宗教と密接な書や絵画の世界を展観する。日本陶磁も同時公開。

特別展示予定＝国宝「紫式部日記絵巻」10 月 10 日 [土] —10 月 18 日 [日]

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日（9 月 21 日・10 月 12 日は開館）、9 月 24 日 [木]、10 月 13 日 [火]

(5) [開館 55 周年記念特別展] 一休—とんち小僧の正体

平成 27 年 10 月 24 日 [土] —12 月 6 日 [日]

破戒の禅僧、一休宗純（1394～1481）。社会への鋭い風刺に満ちたその奔放な書画や詩が今も人々を魅了する一方、「とんち小僧」のイメージは誰からも愛されている。実像に対し、虚像はどのように生まれてきたのか。肖像画・墨蹟・著作・所用の品を中心に、近世の絵入り本・浮世絵等、変貌を遂げつつ現代にまで続く一休伝説にも光をあて、その全貌を捉えようとする展覧会（会期中一部展示替あり）。

一般 1200 円／高・大学生 900 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日（11 月 23 日は開館）、11 月 24 日 [火]

(6) [館蔵] 茶道具取合せ展

平成 27 年 12 月 12 日 [土] —平成 28 年 2 月 14 日 [日]

展示室に当館茶室「古経楼」「松寿庵」「富士見亭」の床の間原寸模型をしつらえ、館蔵の茶道具コレクションから約 70 点を選び展観する（会期中一部展示替あり）。茶匠の茶会記などを参考に道具の取合せを再現。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日（1 月 11 日は開館）、12 月 24 日 [木] —1 月 4 日 [月]、1 月 12 日 [火]

(7) [館蔵] 中国の陶芸展

平成 28 年 2 月 20 日 [土] —3 月 27 日 [日]

漢時代から明・清時代にわたる館蔵の中国陶磁器コレクション約 60 点を展観。戦国時代の計量道具から、唐三彩の壺、宋時代の砧青磁、明時代の青花・五彩まで、時代順に展示し、2000 年にわたる中国のやきものの歴史を展望する。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日（3 月 21 日は開館）、3 月 22 日 [火]

② 調査・研究・保存事業

(1) 美術品の調査・研究

美術品の調査・研究を継続する。新規収蔵品等を中心に調査を進め、より正確なデータベースを構築する。刀剣に関しては、その全身押型を作る（高山諮問委員担当）。

(2) 蔵書・写真の整理

蔵書および写真の整理と登録を進める。

(3) 会議・学会・研修会への参加

美術品にかかわる各種会議・学会・研修会へ参加し、研究成果を発表する。

- ・ 全国博物館大会、全国美術館会議、私立美術館会議、美術史学会、東洋陶磁学会、漆工史学会、茶の湯文化学会、書学書道史学会、文化財保存修復学会（大会出席）。
- ・ 各種研究会および研修会参加（染織文化史研究会、茶書研究会、東京文化財研究所企画展示セミナー、日本書道史研究会、日本博物館協会研究会、墨蹟研究会、画賛研究会）。
- ・ 科学研究費助成事業への参加。

(4) 美術品の補修

蔵品のうちから、特に傷みの著しいもの（本体ならびに収納箱、包裂など）、出陳頻度の高いものを優先し、その修理を行う。本年度は一山一寧墨蹟「園林消暑」偈を修理する。

(5) 美術品の保存

今後の保存対策のため、所蔵庫および展示室の環境測定を実施し、種々データを集める。それに伴って収納棚の保存環境および利用時における安全性を見直し、一部改修して、より効率的な収納ができる保存環境を目指す。また作品を保護するための包裂や箱、刀剣の鞘などを順次修理し、保存・管理の安全性を向上させる。

(6) 美術品の貸出

他所の美術館・博物館への当館蔵品の貸出要望に対しては、趣旨・開催期間などを十分検討し、保存上の留意をしつつ、社会教育の発展・普及の観点から貸出を許可し、出品する。

(7) 博物館界・学会などへの協力

当館の加入する日本博物館協会、東京都博物館協議会、東洋陶磁学会、漆工史学会、全国

美術館会議などの活動に積極的に協力するとともに、各種委員会や美術普及行事、学術文化の国際交流に関して専門学芸員の派遣など、当館の役割を果たしていきたい。また、受入れ態勢の許す限り博物館学および同実習教育を実施する。

(8) ホームページの運営

五島美術館の公式ホームページ (URL=<http://www.gotoh-museum.or.jp/>) を充実し、インターネット上での美術館や所蔵品の紹介、展覧会の広報活動等を展開するために、コンテンツの充実を目指す。

(9) 研究紀要の編纂

研究活動の成果を紀要としてまとめる。執筆者は学芸部を中心とし、資料紹介や調査報告を含めた専門性の高い論考に、美術館・文庫の活動報告を合わせた体裁とする。

(10) 日本伝統工芸展への協賛

公益財団法人日本工芸会他の主催する同展への協賛を通じ、日本における伝統工芸の健全な発展に寄与する。

(11) 公益財団法人大師会の依頼により茶席を担当し、茶道具の貸出と学芸員を派遣する。

③ 普及事業

(1) 友の会

茶の友・美の友・法人友の会などの普及、発展をめざし、美術講座・招待茶会・展示説明会を中心に会員に対するサービスの向上・改善に努める。

(2) ギャラリートーク（展示解説）—入館者対象

- ・[館蔵] 春の優品展—和歌と絵画
-----平成 27 年 4 月 9 日、23 日、26 日、30 日、5 月 3 日、8 日の 6 回
- ・[館蔵] 近代の日本画展
-----平成 27 年 5 月 21 日、6 月 18 日の 2 回
- ・[特別展] 瓷華明彩—イセコレクションの名陶
-----平成 27 年 7 月 16 日、30 日の 2 回
- ・[館蔵] 秋の優品展—宗教と美術
-----平成 27 年 9 月 10 日、18 日、29 日、10 月 1 日、7 日、15 日、18 日の 7 回

- ・[開館 55 周年記念特別展] 一休—とんち小僧の正体
-----平成 27 年 10 月 29 日、11 月 4 日、19 日の 3 回
- ・[館蔵] 茶道具取合せ展
平成 27 年 12 月 18 日、22 日、平成 28 年 1 月 13 日、27 日、2 月 3 日、12 日の 6 回
- ・[館蔵] 中国の陶芸展
-----平成 28 年 2 月 25 日、3 月 24 日の 2 回
* 上記展覧会の展示品を学芸部が解説する。

(3) 茶会（当館主催）—茶の友会会員対象

- ・第 1 回＝平成 27 年 11 月 12 日～15 日の 4 日間
- ・第 2 回＝平成 28 年 3 月 10 日～13 日の 4 日間
- * 上記茶会に使用する美術品について学芸部が解説する。

(4) 陶芸講座（当館主催）—美の友会会員対象

- ・第 1 回＝平成 27 年 5 月 30 日・31 日 予定 定員（各日 35 名）
- ・第 2 回＝平成 27 年 9 月 26 日・27 日 予定 定員（各日 35 名）
- ・第 3 回＝平成 28 年 1 月 30 日・31 日 予定 定員（各日 35 名）

(5) 美の友会月例美術講座（当館主催）—美の友会会員対象

美の友会会員を対象に下記のシリーズを、連続講座（各月 1～2 回）として開催する。各回ともシリーズのテーマに即した主題を掲げ、当館の所蔵品やスライド映写をまじえてわかりやすい講座を行なう。

◆書跡鑑賞シリーズ X 「11 世紀から 12 世紀の古筆」

仮名文字が完成したのは 900 年頃と考えられるが、その後仮名文字の美しさが追及され、11 世紀中頃に典型的な字形が現れる。さらに仮名文字の表現は多様性が増し、11 世紀後半から 12 世紀前半にかけて個性的な仮名文字も登場する。このシリーズでは、その 11 世紀から 12 世紀にかけての作品とされる古筆をとりあげ、その鑑賞をしながら、実際の書写年代の探求を加えた解説をしてみたい（7・11 月は休講）。

〈担当＝五島美術館学芸部 名見耶 明〉

第 1 回	2015 年 4 月 4 日 [土]	「小島切」
第 2 回	5 月 2 日 [土]	「荒木切」
第 3 回	6 月 6 日 [土]	「御蔵切」
第 4 回	8 月 1 日 [土]	「藍紙本万葉集」
第 5 回	9 月 5 日 [土]	「和泉式部集切」
第 6 回	10 月 3 日 [土]	「針切」
第 7 回	12 月 5 日 [土]	「朝忠集」
第 8 回	2016 年 1 月 9 日 [土]	「元暦校本万葉集」
第 9 回	2 月 6 日 [土]	「陽成院一品宮歌合」

第10回 3月5日〔土〕 「近江御息所歌合」

◆陶磁鑑賞シリーズⅣ「高麗茶碗」

「高麗茶碗」は、朝鮮半島で作られた抹茶を飲むための茶碗である。この講座では、高麗茶碗を種類別にとりあげ、各種茶碗の名品を画像で紹介し、産地・制作年代・技法や鑑賞のポイントを解説する（第1～6回は平成26年9月～平成27年3月実施）。

〈担当＝五島美術館学芸部 砂澤祐子〉

第7回	2015年4月11日〔土〕	「熊川・玉子手」
第8回	5月9日〔土〕	「呉器・割高台・金海」
第9回	6月13日〔土〕	「御所丸・彫三島」
第10回	7月11日〔土〕	「御本・半使」

◆染織鑑賞シリーズⅪ「名物裂を楽しむ―『雅游漫録』の世界」

美術館や茶席で拝見する古い仕覆、絵画や書を表具する裂地。古い織物のなかでも「名物裂」と称される舶来の一群は、江戸時代に特別な地位が与えられ、日本の染織文化に大きな影響を与えた。今回は、初めて名物裂の具体的な文様やその価格まで紹介した『雅游漫録』（巻四・宝暦5年〈1755〉）を取り上げる。同書を読み進めながら、鑑賞の基礎知識も含め、伝来する名物裂と関連資料などスライドを交えて解説する（8・11月は休講。全20回を予定）。

〈担当＝五島美術館学芸部 佐藤留実〉

第1回	2015年4月18日〔土〕	「『雅游漫録』と名物裂」
第2回	5月16日〔土〕	「金襴―鶏頭・大燈・長楽寺・逢坂」
第3回	6月20日〔土〕	「金襴―花兎・富田・橘屋・興福寺」
第4回	7月18日〔土〕	「金襴―大徳寺・釣り石畳・鴛鴦」
第5回	9月19日〔土〕	「金襴―針屋・滑銭・大内菱・大内桐」
第6回	10月17日〔土〕	「金襴―高台寺・角龍・建仁寺」
第7回	12月19日〔土〕	「金襴―紹知・なでしこ・義隆」
第8回	2016年1月23日〔土〕	「金襴―安楽庵・いなご・古金襴」
第9回	2月20日〔土〕	「印金・金紗」
第10回	3月26日〔土〕	「緞子―本能寺・白極」

◆工芸鑑賞シリーズⅠ「工芸史拾い歩き―茶の湯編」

用途に応じた機能と使い勝手を持ち、多種多様な技法と卓抜な発想のもとで、あらゆる優れた工芸品は生み出されてきた。本講座では、人々の生活をあまねく満たす美的な空想と工芸の限らない魅力をテーマごとに切り出して紹介する。今期は茶道具に焦点を当て、形・素材・名称含めてややこしく絡まり合った問題を解きほぐしていく（11月は休講）。

〈担当＝五島美術館学芸部 福島 修〉

第1回	2015年9月12日〔土〕	「工芸と茶道具」
-----	---------------	----------

第2回	10月10日〔土〕	「和／漢の構造」
第3回	12月12日〔土〕	「棗の話」
第4回	2016年1月16日〔土〕	「茶杓の問題」
第5回	2月13日〔土〕	「釜の鑑賞」
第6回	3月19日〔土〕	「天目台と盆」

(6) 青少年向け普及講座

小学生や中学生を対象に、美術や日本文化への理解を深めるための各種普及講座を開設する。現在予定している講座としては以下の通り。

- ① 「こども美術講座 王朝絵巻の世界」 平成27年5月5日（祝）
- ② 「こども美術講座 和歌とかな」 5月10日（日）
- ③ 「こども美術講座 日本画を知ろう」 6月7日（日）
- ④ 「こども美術講座 お経の紙いろいろ」 9月20日（日）
- ⑤ 「こども美術講座 王朝絵巻の世界」 10月12日（祝）
- ⑥ 小・中学校等へ出張講義に赴く予定（日程未定）

(7) 特別展関連行事予定

- ・[特別展] 瓷華明彩―イセコレクションの名陶（期間＝6月27日～8月9日）
レセプション＝平成27年6月26日（金）
記念講演会＝平成27年7月12日（日）・26日（日）
※会期中、石川県関連茶会に協力（7月3日〈金〉・4日〈土〉）
- ・[開館55周年記念特別展] 一休一とんち小僧の正体（期間＝10月24日～12月6日）
レセプション＝平成27年10月23日（金）
記念講演会＝期日未定

(8) その他

- ・ミュージアム・コンサート
音楽を通じ、地域住民はじめ来館者に対して美術館の楽しみ方の一面を提示する。
平成27年7月7日（火） クァルテット・リゾナンツァによる弦楽四重奏会
平成27年9月16日（水） 杵屋五三魅と気鋭奏者による長唄演奏会
- ・茶室公開
公開日＝「館蔵 近代の日本画展」期間中（平成27年5月20日〈水〉）
「館蔵 茶道具取合せ展」期間中（平成28年2月10日〈水〉）
入館者を対象に、普段は公開を制限している茶室の解説・及び呈茶を学芸部が行う。
- ・東急電鉄株式会社「キッズプログラム」に参加予定 平成28年1月中旬頃

[2] 文庫事業

① 収集・保存事業

(1) 図書保存

- ・書庫内の参考書誌、図書資料等と和古書との分離収納作業を継続する。
- ・本年度も引き続き、所蔵資料の保存状態を調査し、修理・補修リストを作成する。
- ・書庫内の防虫、防塵、防湿、防災には万全を期す。新収資料の防虫には特に留意する。

(2) 図書修理

破損の恐れのある保存状態の悪い資料を、閲覧の頻度等を考慮しつつ修理する。

(3) 図書収集

研究・閲覧に資する参考資料（辞典、叢書、全集、記録類等）を購入する。

② 展示・公開・調査・研究事業

(1) 図書調査

元政庵瑞光寺等、他機関収蔵の古典籍資料調査を行なう。

(2) 図書閲覧

大学生以上の学術研究者を対象に閲覧業務を行なう。

(3) 研究発表

図書調査・研究活動等に基づき、書誌学、文化史学、国文学、美術史学、保存科学等の研究の成果を機関誌「かがみ」その他、学術専門誌に発表する。

(4) 出版物の編集・刊行・頒布・委託出版

- ・継続刊行中である「大東急記念文庫善本叢刊中古・中世篇」の第27回配本「伝記・願文・語学等」を刊行する。
- ・機関誌「かがみ」第46号を編集刊行する。
- ・既刊の講演録、マイクロフィルム等を頒布する。

(5) 普及

- ・各種団体（大学・研究会・図書館等）の要請による研究会、展示説明会等があれば、これに応じる。
- ・文庫刊行の出版物等を友好機関に寄贈する。また、友好機関、個人から受贈した出版物等は、閲覧研究に供するとともに、整理して保存する。
- ・各種団体等・個人から多数の撮影、出版、放映、翻印等の許可申請があるが、厳しく検討して許可する。

(6) 展示

五島美術館の展示に協力するとともに、他館からの出陳の要請は検討の上、貸し出す。

(7) 国等各種公共機関・団体への協力と職員の派遣

国や各種公共団体の研究会等への参加、助言等、文庫の事業運営上必要と認められる対外活動を行なう。

収支予算書

平成27年 4月 1日から平成28年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基 本 財 産 運 用 益	[11,299,000]	[10,956,000]	[343,000]
特 定 資 産 運 用 益	[10,000]	[0]	[10,000]
公 益 事 業 収 益	[159,011,000]	[148,679,000]	[10,332,000]
受 取 寄 付 金	[147,290,000]	[145,208,000]	[2,082,000]
雑 収 益	[25,000]	[70,000]	[△ 45,000]
経常収益計	317,635,000	304,913,000	12,722,000
(2) 経常費用			
事 業 費	[331,387,000]	[315,064,000]	[16,323,000]
管 理 費	[26,488,000]	[26,393,000]	[95,000]
経常費用計	357,875,000	341,457,000	16,418,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 40,240,000	△ 36,544,000	△ 3,696,000
損益評価等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 40,240,000	△ 36,544,000	△ 3,696,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 40,240,000	△ 36,544,000	△ 3,696,000
一般正味財産期首残高	1,075,206,402	1,111,750,402	△ 36,544,000
一般正味財産期末残高	1,034,966,402	1,075,206,402	△ 40,240,000
II 指定正味財産増減の部			
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	[△ 67,290,000]	[△ 65,208,000]	[△ 2,082,000]
当期指定正味財産増減額	△ 67,290,000	△ 65,208,000	△ 2,082,000
指定正味財産期首残高	3,951,834,473	4,017,042,473	△ 65,208,000
指定正味財産期末残高	3,884,544,473	3,951,834,473	△ 67,290,000
III 正味財産期末残高	4,919,510,875	5,027,040,875	△ 107,530,000

定款第7条に係わる「資金調達および設備投資の見込み」については、平成27年度は「なし」である。